

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2015.12) 平成26年度:57.

「術前診察室」導入における、手術部看護師の「術前オリエンテーション」に対する意識の変化

外山 喬士、本間 敦

「術前診察室」導入における、 手術部看護師の「術前オリエンテーション」に対する意識の変化

旭川医科大学病院 手術部ナースステーション ○外山 喬士、本間 敦

<目的>

2013年5月よりA病院に術前診察室（以下診察室）が設置され、現在、対象患者は泌尿器科と眼科、皮膚科である。手術部看護師（以下看護師）が、病室と診察室による術前オリエンテーション（以下術前オリ）の違いにより、患者にどのような影響を与えると考え、それぞれの術前オリを通して、新たに意識し感じたのかを明らかにすることで、診察室での充実した介入に繋がりたいと考えた。

<方法>

看護師9名に半構成的面接を実施し、逐語録を起こしカテゴリ化した。対象者には研究参加の説明を行い、辞退の自由に同意を得た。

<結果・考察>

『』カテゴリ【】サブカテゴリと示した。

術前オリが患者に与える影響として、診察室では『オリエンテーションへの意識』など2カテゴリと【積極的な姿勢】など5サブカテゴリに、病室では『オリエンテーションへの意識』など2カテゴリと【消極的な姿勢】などの3サブカテゴリに分類された。看護師は診察室での術前オリは、病室よりも患者に【緊張感】を与えているが、【積極的な姿勢】【積極的な発言】の違いを感じ、より患者の【説明の理解】に繋がっていると感じていた。

術前オリで行っている事や感じた事として、診察室では『診察時の看護師の同席』など2カテゴリと【患者の理解と補足説明】など5サブカテゴリに、病室では『術前診察の有無の確認』の1カテゴリと【麻酔科医の説明の把握】など3サブカテゴリに分類された。両者の術前オリの違いは、『術前診察時の看護師の同席』であるが、両者共通して麻酔科医の説明について患者の理解の把握を行っている。また、麻酔科医の説明に同席することで病室よりも【患者の反応の確認】【理解しやすいオリエンテーション】に繋がると感じている。これらより、麻酔科医の説明の内容を把握する事や、患者の反応と説明の理解に対して、麻酔科医と情報共有する事を重要視していることが考えられた。

看護師の意識変化は、『麻酔科医と情報共有』など2カテゴリと【麻酔科医の説明の理解】など3サブカテゴリに分類された。『麻酔科医と情報共有』することは、看護師の麻酔に対する理解を深め、チームを意識した介入に繋がっていると考えられた。

<結論>

- ・術前診察室は病室よりも患者に【緊張感】【説明に対する積極性】【積極的な発言】【説明の理解】を与えていると考えている。
- ・看護師は情報共有する事を重要視し、チーム医療に対する意識の向上を認めた。